

# 人のつながりの大切さを学ぶ修学旅行

ー現地の人々との交流を通してー

愛知県名古屋市立東港中学校

教諭 田上 嘉一

## 1 はじめに ～東港中学校の紹介～

本校は、昭和22年に開校以来創立58年目を迎える。学級数21(障害児学級を含む)、生徒数716名の大規模校で、名古屋市の南西部に位置する港区に校区を置いている。校区には、日本を代表する国際貿易港である名古屋港やガーデンふ頭を中心に、南極をテーマにした名古屋港水族館、海洋博物館を備えたポートビルなど市民に親しまれる海洋文化・レクリエーションの拠点が点在し、ウォーターフロントを生かしたまちづくりが着々と進められている地域である。さらに区役所・保健所・郵便本局・警察署など区内の主要官公署や、文化小劇場・図書館・国際留学生会館などの文化施設も校区内にあり、まさに港区の中心地に位置しているといつてよい。



本校は、平成8年度に校舎が全面改築された。新しい3階建ての校舎は市内でもめずらしい眼鏡型をしており、空まで吹き抜けとなっている中庭では、放課などに植え込みに併設されたベンチで語り合う生徒の姿がしばしば見られる。また、全室に空調設備が完備しており、整った学習環境の中で生徒たちが落ち着いた学校生活を送っている。

本校では、教育活動全般を通して「人間性豊かな生徒の育成」を目指し、学校をあげて「思いやりの心、奉仕の心の育成」に取り組んでいる。なかでも、保護者とともに学区清掃に取り組む「親と子の奉仕活動」、小学校区単位での「お年寄りとの交流会」などは、長い歴史と地域からの高い評価を得て現在の生徒たちに受け継がれている行事である。また、平成10年度からは文部省(当時)のスクールカウンセラー調査研究校の指定を受け、カウンセリングの専門家とともに協働して教育相談に当たる土壌づくりに取り組んできた。現在では、生徒指導部とともに教育相談部を生徒指導の両輪ととらえ、スクールカウンセラーを活用する教育相談体制を確立し、全校生徒を対象とした「心の教育」に取り組んでいる。

また、マルチメディア教育の分野では、平成13年から文部省(当時)の「学校インターネット3」の指定を受けるとともに、「名古屋市新世紀学校づくりプラン」の指定も受け、いち早く光ファイバーによるインターネット環境を整え、総合的な学習の時間や教科学習に活用している。

## 2 本校修学旅行の変遷

本校では平成14年度にいたるまで、市内の多くの中学校と同様に連合体輸送を利用し東京・横浜方面で修学旅行を企画していた。その概要は、おおむね毎年次のようなものである。

————— : 新幹線    - - - - - : JR    === : 貸切りバス

1日目	金山-----名古屋——東京===国会===TDR===都内(泊)
2日目	東京都内or横浜市内分散学習===富士五湖or箱根(泊)
3日目	富士五湖or箱根分散体験学習===三島or新富士——名古屋-----金山

こうした修学旅行の実施を重ねる中で、東京・横浜方面を中心とした行程に、次のような問題点が顕在化してきた。

同時期に各方面から東京・横浜周辺に修学旅行が集中するため、宿泊施設・見学施設のキャパシティに不足が出てきた。行程上最適の宿泊地が確保できなかつたり、見学施設で待機のための余分な時間がかかたりすることがしばしば見られた。

連合体輸送を利用するため、旅行日程に弾力性が欠け、定期テストなど学校行事の設定に無理が生じることがあった。

繁華街では、特に修学旅行生をねらった悪質業者が現れたり、生徒にとって危険な地域が存在したりして、安全確保に必要な以上の配慮が必要となってきた。

昨今の経済事情から、学校の教育活動全般に保護者の経費負担の削減が求められるようになり、修学旅行も当然ながらその対象となってきた。

そこで、現在の修学旅行の在り方を校内で検討するとともに、修学旅行候補地の拡大も踏まえ、平成9年度から大阪・神戸・淡路島、岡山・倉敷、房総半島、伊豆半島等の各方面へ視察を続けてきた。

その結果、宿泊施設・見学施設が比較的多様である、日程に弾力性がある、市街地が広範囲にわたらず分散時の生徒の把握が容易である、名古屋から近距離であるため費用の軽減効果が大きい、といった利点から平成13年度から神戸・大阪方面への実施を主に検討することとなった。

その結果、平成14年1月に同方面での実施を決定し、平成15年5月に本校として初めて神戸・淡路島・大阪を目的地として関西方面への修学旅行を実施した。

### 3 平成16年度の実践

#### (1) 「総合的な学習の時間」における修学旅行の位置づけ

本校では、平成14年度から完全実施された「総合的な学習の時間」において、課題解決の能力を培うことを目指し、それぞれの学年段階ごとに学習目標を設定し、各学年で学習内容を工夫して取り組んだ。

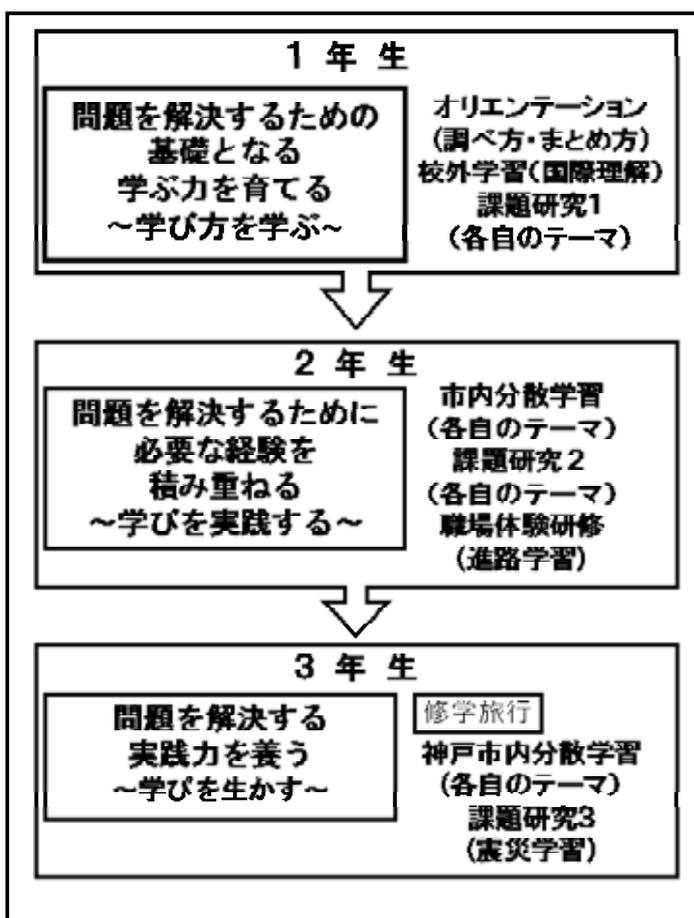
1年生では、「問題を解決するための基礎となる学ぶ力を育てる～学び方を学ぶ～」を目標に、校外学習(国際理解)・課題研究1(各分野)・職業学習(進路学習)に取り組み、課題解決に必要な情報収集の方法について学習した。特にコンピューター・文献資料・聞き取り調査などの方法については、各学習内容ごと

にオリエンテーションを実施し、その効率的な活用法を学習した。

2年生では「問題を解決するために必要な経験を積み重ねる～学びを実践する～」を目標に、名古屋市分散学習(各分野)・課題研究2(各分野)・職場体験学習(進路学習)に取り組んだ。1年生で学習した方法に基づいて必要な情報を収集し、実際に名古屋市内の各施設を訪問したり市内外の事業所で職業体験を行ったりして、課題解決に必要な経験を積んだ。

これらの学習を踏まえ、3年生では「課題を解決をする実践力を養う～学びを生かす～」を目標とし、義務教育最終の学年としてこれまで学習してきた情報収集やまとめ方の方法を生かして、自分の課題を解決していく活動に取り組んだ。

そこで今回の修学旅行では、「総合的な学習の時間」として「神戸市内分散学習」と「震災学習」を課題として設定した。詳細は後述するが、東海地震防災強化指定地域にある本校区にとって地震に対する防災意識の向上は緊急の課題である。したがって阪神大震災や神戸のまちづくりを通して防災意識を高めることは、これまでの総合的な学習で培った学びを実践する機会として適していると考えた。いずれも、事前学習・当日の体験的な学習をもとに課題を設定し、事後に研究成果をまとめる過程はこれまで同様とした。



## (2) 修学旅行の概要

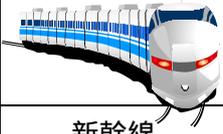
### ねらい

前項で述べた「総合的な学習の時間」の学年目標及び2年生までの取り組みや特別活動での取り組みを基に、修学旅行を通して育てたい子どもの姿を踏まえて、ねらいを次のように設定した。

- (1) 神戸を訪れ、これまで学んできたことを直接見聞し、理解を深める。
- (2) 阪神大震災の悲惨さと復興の歴史を、街並みや現地の人々とのふれあいを通して学ぶ。
- (3) 自主的・協力的に活動する態度を育てるとともに、集団の一員として自分の責任を果たすことができるようにする

### 日程 (        は、体験的な学習を示す)

5月25日(火)

金山駅 集合	金山 発	名古屋 発	 新幹線	新神戸 着	新神戸駅 発	神戸市内 分散学習
7:05	7:42	8:25		9:52	10:20	

明石海峡大橋 集合	明石海峡大橋 見学	 徒歩	ホテル 舞子ピラ着	夕食 就寝
15:20	15:30~		16:45	

5月26日(水)

起床	ホテル 発		人と防災 未来センター 見学		雲中・ 小野柄地区 着
6:20	8:30	バス	9:30	バス	12:00

震災学習	各地 発		WTC 夕食		都ホテル 着	夕食 就寝
	16:30	バス	18:00	バス	20:00	

5月27日(木)

起床	ホテル 発		USJ 見学	USJ 発		学区 着
6:20	8:10	バス	9:00	14:00	バス	18:00

## 体験的な学習の実際

### 実践事例 1 「神戸市内分散学習」

ねらい

修学旅行全体のねらいをうけて、神戸市内分散学習ではグループ別分散の形態をとり、自主的・協力的な態度や責任感を育成することともに、それぞれがグループで設定したテーマに沿って神戸の街並みを見学し、神戸港震災メモリアルパークなどの見学を通して震災後の復興の様子を学ぶことをねらいとした。

事前学習

見学コースを検討するに当たって、次の点を条件として提示し、この条件に沿って行動予定を計画することとした。

**16:00に舞子駅前の舞子プロムナードへ集合**

**神戸市役所24F展望ロビー、南京町広場、北野異人館広場のいずれかをコースに入れ、チェックを受ける。**

**神戸港震災メモリアルパークは必ず見学する。**

**利用交通機関は、鉄道とループバスを利用し、その他の路線バスは利用しない。**

資料については、市販の旅行ガイドブックを用意するとともに、神戸国際観光コンベンション協会発行の「発見！体験！まるごと神戸」を各グループに配布した。この資料は神戸市内の主要見学先を組み入れたモデルコースが掲載されており、テーマやコースの検討の柱として活用できたいへん有用であった。その他、神戸市生活文化観光局発行のガイドマップや南京町商店街振興組合発行の神戸南京町案内図などを資料として使い、詳細はインターネットの各サイトにアクセスし情報を収集し、各グループでコース検討の資料とした。

コースを決めるに当たって最も検討を要したのが、各見学地を結ぶ交通機関の選択であった。インターネットなどでの資料で見学先についてはおおよその情報を手に入れることができるが、私鉄網の発達した神戸市街だけに、交通機関の選択についてはどのグループも苦勞することが予想できた。



**グループで見学先を検討する**



**インターネットで情報を検索する**

そこで事前に旅行会社との間で打合せをし、担任が点検した行動計画を再度旅行会社添乗員に点検してもらうことにした。その結果、別ルートでの乗換えの方法が提示されたり、見学時間の修正をしてもらったりして、より安全で効率のよい行動計画をつくることができた。

#### 当日の活動

当日は、32グループに分かれ、5つのエリアから行き先を選択して見学した。チェックポイントを、神戸市役所展望台・南京町広場・北野異人館広場の3か所に設定したが、計画作成の段階で昼ごろにすべてのグループが南京町広場に結集することがわかったので、チェックポイントは南京町広場のみの設定とした。



南京町で異国情緒を味わう

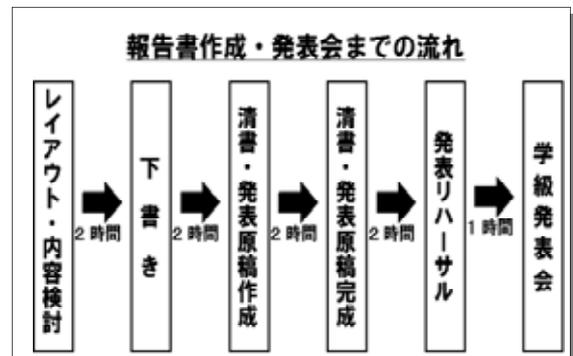
「神戸の街並みを歩いて見る」をテーマにしたグループは、新神戸駅を出発して、北野異人館・南京町・メ

リケン波止場(神戸港震災メモリアルパーク)・ハーバーランドなどをすべて歩いてまわった。それぞれの見学先で資料を収集するとともに目にとまった建物や標識などを撮影して、事後学習での報告書づくりに備えた。

分散学習の最後に、集合場所として明石海峡大橋の見学ができる舞子プロムナードの見学を設定し、世界最大のつり橋が完成するまでの過程や阪神大震災での被害について展示された資料から学習した。

#### 事後学習

修学旅行終了後、「総合的な学習の時間」を活用し、現地で撮影した写真や収集した資料を使った報告書づくりに取り組んだ。次にできあがった報告書をもとに、各学級で発表会を行い、評価カードに報告書のでばえ・発表の工夫・発表のわかりやすさ・グループのまとまりの4点についてそれぞれを採点し合った。さらに、報告書については2学期初めに行われる校内作品展に出品し、1・2年生



学級発表会でまとめを発表する

に来年度以降のまとめの参考とさせるとともに、保護者にも見ていただいた。



校内作品展



報告書の一例

保護者の声

修学旅行で学んできたことが、わかりやすく  
じょうずにまとめてありました。中学生最後  
の作品展でしたが、学年が上がる度に作品  
の質が上がっていくのがよくわかりました。

## 実践事例2 「震災学習」

ねらい

本校の位置する名古屋市は、東海地震防災強化指定地域となっている。大部分を埋立地に置く本校校区は、阪神大震災の被害を見るまでもなく、大きな揺れによる液状化現象、津波などの被害が懸念されている。

さらに本校校区は、大都市によく見られる高層住宅が建ち並んでいて、それゆえ生徒たちは地域への愛着や帰属といった意識が希薄な傾向がある。いざ震災といったできごとに出会った場合に、地域での助け合いや避難活動などに生徒たちが心の面に対応しきれないのではないだろうかと考えた。

もちろん今までも、生徒たちは小学校の時に校区に隣接した名古屋市防災センターでの展示物による学習や揺れ体験を通して、地震被害に対する学習を進めてきている。また本校でも、神戸在住で阪神大震災後のボランティアネットワークの研究を進めている大阪外語大教授森栗茂一氏の講演会を設定するなどして防災意識の向上に取り組んできた。

そこで今回の修学旅行では、阪神大震災を題材として、資料の見学や講演を通しての学習だけでなく、震災後に神戸市で整備されてきたボランティアネットワークに協力をいただいて被災体験をもつ人々と直接的にふれあう学習を中心においた。こうした学習を通して、生徒たちが「人のつながり」の大切さを理解し、東海地震及び東南海地震に対して地域社会に視点を置いた防災意識を高めることができるよう取り組んだ。

## 当日の活動

実践事例1で述べたように、神戸市内分散学習に神戸港震災メモリアルパークの見学を組み入れ、また復興後の街並みもテーマに含んで学習し、2日目に本格的に震災学習に取り組むこととした。

震災学習のスケジュール			
午前	昼食	午後1	午後2
人と防災 未来センター 見学	炊き出し 体験	震災体験を 聞く	グループメニュー
			地域コミュニティづくり 銭湯体験 資料館 デイサービス ものづくり大学 北野工房 ハイキング 復興の歴史 パナマ帽 まちあるき 神戸を歩く

「人と防災未来センター」見学（写真はHPより抜粋）

午前中神戸市中央区にある「人と防災未来センター」を見学した。ここでは、地震発生の瞬間をコンピューター・グラフィックスなどで再現した「1・17シアター」や、復興までの様子を振り返えるドキュメンタリー映像などで震災当時の状況が詳細に伝えられてる。

シアター映像を見終わった生徒からは、「名古屋にもこんな地震が本当に来るの?」「うちも海に近いよねえ、液状化するんだろうか?」という声が聞かれ、震災被害の甚大さを再現映像によって臨場感をもって受けとめることができた様子が見られた。

資料展示コーナーでは、震災の記憶を残そうと多くの市民の協力により集められた震災関連の資料が提供者の体験談とともに約800点展示されており、生徒たちはメモをとったりバーコードナビゲーターを使って資料を印刷したりしながら震災被害の状況を学習していた。語り部が自らの震災体験について語るコーナーでは、ボランティアの語り部と生徒がひざを交えながら語る姿も見られ、震災を体験した人から直接聞き取りをすることもできた。



人と防災未来センター外観



震災直後の街



地震を再現するシアター

## 被災体験をもつ方たちとの震災学習

午後は雲中小学校と小野柄ダイケアセンターに分かれ，地元婦人会の方々の協力を得て炊き出しを体験し，その後神戸の地場産業の体験をしながら震災体験を聞いたり，街を歩いて巡る防災ワークショップに取り組んだりした。

昼食を兼ねた炊き出し体験では雲中小学校の教室と小野柄ダイケアセンターをお借



雲中小学校で炊き出し体験

りし，汁物とご飯という震災当時最も標準的だったメニューを用意していただいた。

昼食後は，小グループで地元の震災体験をもった人たちと，作業をしたり写真を見たりしながら交流する活動に取り組んだ。

震災被害のすさまじさを写真に撮り続けた方は，「たくさんのボランティアの人たちに神戸に来て助けてもらったり，たくさんの救援物資を送ってもらったりしたことはとてもありがたかった。でもそれ以上に生活を立て直すために役に立ったのは，隣近所のネットワークだった。日ごろからこういった人のネットワークをもとに地域のコ



被災した方から話を聞く

ミュニティを大切にしていくことが防災には重要だ」と語り，震災以降神戸では地域コミュニティづくりがさかんになっていることを強調していた。

神戸の街を巡る防災ワークショップでは，新神戸駅から海岸通りまでの危険箇所や地域の防災施設を紹介していただいた。震災では水の供給が絶たれたことが最もつらかったという話をもとに，住宅地にある砂防堰や地下貯水池などを見てまわり，神戸のまちづくりと水について考えた。最後に立ち寄った商店街では，下校途中の小学生や手押し車のお年寄りなどがいっしょに歩いている姿をみせてもらった。そこでは，いろいろな世代の人が地域社会をつくっている



防災ワークショップで街巡り

ということが大切であり，こうした人がつながっている社会が，震災などの際に物質的な面だけでなく精神的な面の大きな支えになるというメッセージを生徒たちに伝えていただいた。

## まとめの学習

「震災学習」のまとめは、資料の追加・検討などを行った上で夏休みの課題研究として取り組み、「神戸市内分散学習」のまとめと同様に作品展に出品した。折しも、9月当初に東海沖で比較的大規模な地震が頻発したこともあって、作品展を見学した1・2年生、保護者、地域の方の関心も高かったようである。

どのレポートも、震災の被害の悲惨さとともにそれを乗り越えてきた人々に対する思いが綴られており、資料からだけでなく現地の人々と直接膝を交えて話し合った成果がみられた。また、震災からの避難生活やその後の復興について触れる箇所には、ボランティアや他県の人々などの援助とともに、地域社会の人のネットワークが果たす役割についても目が向けられており、地域社会に視点を置いて防災意識を高めることできたと考える。

## 4 おわりに

**私たちは震災を体験した方たちの話を聞いたり、写真やビデオを通して当時の悲惨さや大変さを知りました。そして私はある大切なことを学びました。それは、「人間が最悪の状況に陥ったとき、お金やモノよりも、人と人との絆が一番大事」ということです。**

**(修学旅行後の生徒Aの作文から)**

今回の修学旅行では、ボランティアの方たちと交流することで地域コミュニティの重要さ、すなわち「人のつながり」の大切さを学習することをねらいとした。生徒Aの感想にあるように、生徒たちは阪神大震災の被害の甚大さを学習するとともに、復興には人のネットワークが大切であることを理解できた様子が見られた。

一方で、修学旅行全般を通して次のような課題があきらかになった。

神戸市内分散研修は、観光的な内容に傾きがちであった。震災学習を先に設定し、そののちに街並みを見学する流れの方が復興後のまちづくりを意識させるためにはよかったのではないか。

ボランティアネットワークに震災学習のプラン作成を依頼したが、メニューごとの活動や事前の予定と実際の活動に差異があった。もっと内容に踏み込んで打合せをもつ必要があった。

新幹線の時間設定が早すぎ、職員集合が6:30になった。昨年度同様遅い時間の列車を希望してもかなわず、さらに、岐阜羽島で同一車両に隣県他校と混乗することになった。JR・旅行会社を含め、連絡調整の場を設定する必要があると感じた。

本校の関西方面への修学旅行は、はじまったばかりでノウハウの蓄積が十分でない。神戸と同じ港町である校区の特性を生かした学習など、まだまだテーマ設定の要素はたくさんあるように考えられる。今後も、体験的にかつ人から直接学ぶことができる修学旅行のために題材の開発を目指していきたい。